

程度に異常を示し、この症例は、多発性骨髄腫よりも他の悪性腫瘍の骨転移と考える方が良いのではないかと考えられ、骨スキャンにより、この両者が鑑別できうる可能性を述べた。

15. ^{99m}Tc -EHDP 脳スキャンの臨床的意義

—その後の検討—

○小林 真 前田 敏男 伊藤 和夫
利波 紀久 久田 欣一
(金大・核)

我々は ^{99m}Tc -DHEP brain scan の臨床的意義について度々報告してきたが、今回更に early scan についても検討し若干の知見を得たので報告する。 ^{99m}Tc -EHDP brain scan 及び ^{99m}Tc -pertechnetate brain scan において early scan, delayed scan とともに施行した症例に例(脳腫瘍 5 例, 脳梗塞 7 例)について検討した。方法は従来報告した通りであるが、early scan は RI アンギオ施行直後(RI 注入後約 5 分)の撮像を開始した。陽性率は early scan では ^{99m}Tc -pertechnetate brain scan で 8/12 例, 67%, ^{99m}Tc -EHDP brain scan で 10/12 例で 75%, delayed scan では各 12/12 例, 100%, 9/12 例, 75% であった。 ^{99m}Tc -EHDP brain scan で濃度差が early > delayed であったものの脳梗塞例 0%, 脳腫瘍例 100%, early < delayed であったものの脳梗塞 78%, 脳腫瘍 22% であった。以上より ^{99m}Tc -EHDP brain scan の early scan と delayed scan の比較は脳梗塞と脳腫瘍の鑑別に有用な情報を提供すると思われる。

16. 断層スキャン(pho/con)による脳シンチグラムの検討

多田 信平 木野 雅夫 兼平 千裕
川上 憲司 勝山 直文 望月 幸夫
(慈恵大・放)

最近我々の施設で稼動を始めた断層スキャン装置 Pho/Con による脳シンチグラムを呈示する。装置は Searle 社製で上下 2 ケの、光電管 7 ケと

focused collimator を有するシンチカメラ, analyzer console, imager console からなる。このシンチカメラが移動することによって合計 12 ケの断層像を得ることができる。現在までの印象としては頭蓋内病変に関して、通常脳シンチグラムと検出能としては変わらないが、病変の輪廓が明瞭になる症例がある。更に症例を重ねて検討する。

17. Shunt independent arrest hydrocephalus の核医学的診断の可能性と限界

前田 敏男 小林 真
利波 紀久 久田 欣一
(金大・核)

Shunt independent arrest hydrocephalus の診断に一番重要なのは臨床症状が良好であるという事である。このような患者の脳半球のくも膜下腔の状態や脳脊髄液の動態を調べるのに RI システムノグラフィーが有効である。また、脳室短絡系の機能を RI を用いて検査すればより正確な診断が可能となる。つまり、①臨床症状が良好で、② RI システムノグラフィーが脳室を描画せず、24 時間像では傍矢状領域まで描画せし、(正常像を示す)、さらに ③ RI 脳室短絡系検査が、短絡系の機能がない事を示せば Shunt independent arrest hydrocephalus の診断を下しても良いと思われる。もし、短絡系から RI を脳室に注入できれば簡単に RI 脳室シンチグラフィーが可能となり、優れた検査手段となり得る。我々の経験した本症例を供覧する。

18. オッシロスコープ軌跡記録用ポラロイドカメラによる核医学データ処理装置 DAP-5000N. CRT. DISPLAY の 2 分割撮影法

矢野 正幸 菅野 敏彦 藤井 忠一
大澤 保 浜田 洋 近藤 隆司
(県西部浜松医療センター・放)

データ処理装置の CRT 画像をシフトさせ、自家製の分割板を用いてポラロイドフィルム上に 2